

会議録

会議名	第4回総合計画審議会
会議日時	令和7年12月23日（火）14時00分から15時15分まで
会議会場	第2庁舎2階第1会議室
出席者	別紙「さくら市総合計画審議会委員名簿」を参照
欠席者	田代宏氏（PTA協議会）、見目貴紀氏（蒲須坂工業団地）、荒井秀忠氏（塩野谷農業協同組合）黒田敦子氏（校長会）、野上裕之氏（下野新聞）
記録者	総合政策部総合政策課政策推進室プロジェクト推進係主査 大橋 航平

あいさつ

皆さまの忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

- ・ 委員質疑
- ⇒ 委員回答等
- 担当課・事務局回答等

議事

●議事1 パブリックコメントの結果

質疑・意見なし

●議事2 第3次さくら市総合計画（答申案）

①質疑・意見

- ・(角田委員) 中村市長の方針として特に入れる部分はどこか。
→本計画案における「重点分野」である。施策体系をもとに市長と協議をし、市として特に注力すべき部分を重点分野として選択した。
- ・(角田委員) 第3回総合計画審議会にて「ひきこもり支援」も重要と意見した。その内容は計画案に盛り込まれているか。
→施策2-1「誰一人取り残さない社会福祉の推進」の基本方針に文章化した。指標としては設定していないが、この施策の中で取り組んでいく。
- ・(笹沼委員) 産業団地を蒲須坂地区に整備する方針があるが、喜連川工業団地にもまだ未利用の用地があるときいている。このことについてどう考えるか。
→市の企業誘致施策の中で取り組んでいる。活用を考えている企業等があれば、市としても支援していきたいと考えている。
- ・(若見委員) 総合計画における各政策、施策の優先順位をどう考えているか。
→人口減少社会において地方創生が重要であると考える。そのことから、出生率向上、子育て支援といった取組を「政策1」として一番前に配置している。逆に行政内部の取組について、本計画案では「政策6」として一番後ろに配置した。
- ・(若見委員) 特に氏家地区では現在でも次々と住宅が建ち、人が移住してきている。人口減少対策として、住宅メーカーへの支援が重要と考える。
- ・(石岡委員) 重点分野について、中村市長の方針を計画に盛り込んだものかと考えていたが、そうではなく、計画案の中から選択したということか。
→重点分野として、特に注力して向上していきたい指標を市長と協議し選択した。そのための「具体的な取組」は本計画案ではなく、実施計画など他の部分で示していくこととなる。
- ・(谷口委員) 地域の高齢者は特に外出する際の交通手段がないことに悩んでいる。デマンド交通や路線バスの充実に取り組んでいただきたい。
- ・(三橋会長) ドイツでは、人が外出することは「基本的人権」と考えている。日本では公共交通について民間に任せきりとなる傾向があるが、行政と民間で共に取り組んでいくべきテーマである。
- ・(笹沼委員) 施策体系を見ると、重点分野となっている施策は少ないが、国土強靭化計画対象の施策は非常に多くなっているのはなぜか。
→国土強靭化については、起きてはならない最悪の事態「リスクシナリオ」を防ぐための市の取組と関連しているものすべてが対象となる。一方で重点分野については、特に注力する分野を示すものである。それぞれ基準が違うため、対象となる施策数は異なる。
- (笹沼委員) 理解できたが、子育て・教育と環境・安全政策にももっと力を入れてほしい。

- ・(加藤委員) パブリックコメントでは意見がなかったとのことであるが、こういった計画を策定する際に市民の声を取り入れるのは重要であると考える。次期計画では、市がどのような考え方でどのような計画を策定するのか、策定の最初の段階で説明いただき、あらかじめ市民の声を聴き、計画に取り入れていくよう取り組んでいただきたい。また、基本計画の指標における現状値や目標値について、どのような考え方で数値を設定したのかなども含めてわかりやすく説明するよう検討いただきたい。
- ・(渡邊委員(代理)) 基本構想における「まちづくり指標」には目標値を設定しないのか。例えば人口の目標値を定め、それを達成するために各政策、施策を実行するという構成にした方がよりわかりやすい計画になると考える。
→基本構想における「まちづくり指標」は、指標を変動させる要素・取組が無数にあり、予測が難しいことから目標値を設定していない。定期的に現状値を取得し、さくら市というまちがどのような状態にあるかを確認する指標として掲載している。
- ・(三橋会長) 施策5-2基本事業4の「道の駅きつれがわ～東北自動車道までの移動時間」はどのような考え方で目標値を設定しているのか。
→現在要望を行っている「スマートインターチェンジの新設」が達成された場合、目標値に記載の時間になると想定している。
- ・(三橋会長) 施策6-1の「実質公債費比率」について、目指す方向は「~」となっているが、現状値7.7%、目標値10.2%となっているのはなぜか。
→今後計画されているさくら市の大規模事業を想定した中で何もしないと上がり続けるものを、取組を行うことにより止めようという目標のためこのような記載になっている。

②結果

全会一致により承認。

●議事3 その他

(1) 第2期さくら市国土強靭化地域計画

質疑・意見

- ・(三橋会長) 脆弱性評価で網掛けになっている部分は、さくら市で起きる心配がないものというよりは、起きてしまったらどうしようもないというようなこと、という理解で問題ないか。
→問題ない。
- ・(加藤委員) 脆弱性評価で網掛けになっている部分はさくら市で該当ないとのことだが、網掛けになつてないものでも総合計画に該当する施策がないものがあるが、どのように考えるか。
→内容を再確認し、必要に応じて修正する。

(2) その他

- ・(若見委員) 本日の会議で出た意見を市としても受け止め、今後の取組に反映いただきたい。
→総合計画は市の方向性を示すものであり具体的な内容となると本計画への反映は難しいものがある。各所管に本日いただいた意見を共有し、「地域公共交通計画」などの個別計画や各課における事業に反映できるよう取り組みたい。

以上